

【令和2年度 授業改善推進プラン】

板橋区立赤塚第三中学校

【国語】

<p>■生徒の状況</p>	<p>概ね落ち着いた状況で授業を受けている。生徒により、語彙力・読解力にかなり差がみられ、小学校程度の漢字力が不十分な生徒も見られる。音読・朗読は比較的意欲をもって取り組む生徒が多い。</p>
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校での既習漢字の書き取りの力（読み書きとも）を向上させる指導の工夫が課題となる。 ・語彙力の不足は文章を理解する力・自分の考えを相手に伝える表現力に直結するため、その力をつけることが課題の一つとなる。 ・書くことへの苦手意識を減らすことも課題の一つとなる。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の復習を漢字の小テストなどで繰り返し行う。また、放課後や夏休みの補習等も活用して、基礎力の定着を図る。 ・語彙力をつけるため、読書活動に力を入れる。読書感想文の書き方や過去の優れた作品を紹介したり、ブックトークなどの活動を取り入れたりすることで、本を身近に感じられるように工夫する。 ・書くことへの苦手意識を減らすため、文字数や内容の難易度を比較的容易な課題から始め、各単元の最後に時数を決めて書く活動を取り入れる。生徒同士で評価をさせるなど、評価方法を工夫し、意欲をもたせる取り組みを取り入れる

【社会】

<p>■生徒の状況</p>	<p>日々の授業では、意欲関心を持ち、積極的に取り組んでいる生徒が多い。定期テストでは、基礎的な知識や技能を身に付けている生徒が多い反面、様々な資料を読み解き、思考判断する力が不足している生徒が多い。</p>
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識技能のさらなる定着が課題である。 ・様々な資料を読み解く力の育成が課題である。 ・自分の考えを文章にして表現する力の育成が課題である。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な資料から適切な情報を読み取る活動を増やす。 ・主体的・対話的で深い学びを実現するために、発問を工夫したり、生徒同士が意見交換を通して課題解決に向かう活動を行ったりしていく。 ・「振り返り」の時間を確保し、生徒自身が毎時間の達成状況を文章で表現し、日々の成長を実感できるようにしていく。

【数学】

<p>■生徒の状況</p>	<p>1学年は一斉授業を、2・3学年では少人数習熟度別授業を行っている。全体的に落ち着いて授業に取り組むことができている。挙手や発言を生徒から多くするクラスなどもある。しかし、家庭学習の習慣があまり定着していない。</p>
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟の差を生かしたねらいの提示や展開、教材の工夫を図る。 ・思考力を育てるために、ICTを活用した授業展開を考える。 ・『分かった』『なるほど』『だったら』を大切にする授業を展開する。 ・家庭学習の定着のため、宿題プリントを定期的に提出させる。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員で習熟度授業の様子を意見交換し、進度や課題等の意思統一を図る。 ・单元ごとに、対応したICTを利用して、思考力・判断力を養う。 ・考える力を育てるための、発表できる授業を展開する。 ・定期的な宿題提出の習慣化。

【理科】

<p>■生徒の状況</p>	<p>どの学年も、概ね落ち着いた状況で授業を受けている。実験や観察に興味をもつ生徒は多いが、昨年同様、実験の技能や洞察力、考察してまとめる力は未熟である。基礎学力が定着していない生徒もおり、学力の格差は解消されていない。また、読み解く力も不足している。</p>
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に興味をもち集中を維持させることへの工夫が必要。 ・実験の技能と考察する力を育てるための授業展開を考える。 ・学んだことを理解し、定着させるための取り組みの習慣化。 ・プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高める工夫が必要。 ・読み解く力をつけさせる指導の工夫が必要。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・説明や資料の提示の仕方、時間配分などの工夫を行う。 ・個人で取り組む実験を増やしつつ、意見の交換、学び合いができるグループワークなどの機会をさらに多くつくる ・小テストやレポートなど、家庭学習の習慣を付けさせ、こまめに一人一人の理解度を確認する。 ・読み解く力をつけさせるための授業形態の試行錯誤を繰り返す。

【音楽】

<p>■生徒の状況</p>	<p>全校生徒の数が多く、学校全体に大変活気があり、声を出すことに抵抗感が少なくなった。始業式、終業式での校歌もよく歌えるようになった。</p> <p>1年生は元気に授業に参加しているが、クラスによっては少し消極的で声が出にくい場面がある。2年生は男子の変声落ち着いた、深みのある声になった。しかし、一部数名は声を出すことに抵抗感をもち授業に前向きに取り組めない。3年生は大変意欲的に授業に参加している。</p>
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の面で多少乱れるクラス(1、2クラス)が見受けられる。 ・表現領域では、読み解く力の育成を念頭に置きながら、歌詞の意味や曲想をきちんと理解し、表現する力をさらに深める。 ・鑑賞領域では楽曲の要素やテクスチャからイメージを膨らませ、楽曲の背景、文化歴史などにも着目させ、より深い鑑賞能力を養い、その力が表現の能力にフィードバックされるような指導が課題となる。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始前の着席、あいさつ、発声、姿勢などについて毎時間確実に指導を行う。 ・授業規律について、音楽科で連絡を取り徹底させる。 ・響く声で歌えるよう、発声法を定着させる。 ・教材を精選し基礎・基本の定着を図る。 ・協働学習を効果的に取り入れ、意見、考え、思いを共有し、作品を深く掘り下げ、理解するよう指導を行う。 <p>★今年は感染症予防対策でマスク着用が続き、声を出しての歌唱授業行えていない。状況を鑑みながら、クラスの合唱曲に取り組むことを目標とする。</p>

【美術】

<p>■生徒の状況</p>	<p>・創造活動が苦手な生徒もいるが、美術の学習に進んで取り組む生徒も多い。1年で発想・表現の基礎を学び2・3年では課題に各自で取り組んでいる。</p>
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイム着席が定着しつつあるがギリギリに教室につく生徒もいる。 ・用具を忘れる生徒がいるので用具を準備することを身に付けさせる。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教材・教具を整備していく。不足している物品を整える。 ・教室や校内に参考作品などを掲示し生徒の創作意欲を向上させる。校内に美術展の案内等を掲示する。 ・導入時の説明とまとめて授業のめあてを確認する。 ・研修などに参加し知識を充実させ生徒の質問により具体的に答えられるように研究に取り組む。 ・ICT機器の活用を増やす。

【保健体育】

<p>■生徒の状況</p>	<p>大多数の生徒が、積極的に授業に取り組んでいる。体力面では、二極化がやや見られる。</p>
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画の充実や体育実技での内容を工夫しているが、十分な運動量を確保できない。 ・校庭、体育館の広さのわりに授業の重なりが多く、利用できるスペースが狭い。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の選択が重ならないようにするとともに、狭いスペースの中での運動量の確保を常に考えていく。 ・毎授業の始まりに、筋力トレーニングとともに、コーオーディネーショントレーニングを導入し、運動能力向上を図る。また、投力の記録向上を目指し、各授業の中で工夫を加える。学年に応じて他の補強運動を加えていく。 ・ICT 機器の活用を増やし、視覚的情報を取り入れ、より理解が深まる指導を行っていく。 ・球技等でのゲームでは、インプットしたことをアウトプットできるように協同学習の中で個人やチームの課題を考えながら練習やゲームを行っている。

【技術・家庭】

<p>■生徒の状況</p>	<p>実習など活動の多い授業は積極的に取り組めるが、細かい作業を時間内に丁寧に進めることが難しい。また、生活体験が家庭によって様々で、技能面において個人差が著しい。</p>
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・週1時間、3学年の2週間に1時間の少ない授業数の中で、基本的な技能を習得させるよう工夫しているが、週時数が少ないため技能の定着が難しい生徒がいる。 ・実習における技能だけでなく、知識を理解するための座学の授業での集中力を付けさせる。 ・主体的に考え、実生活への活用させるため、家庭の協力が不可欠である。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを明確にし、本時どう取り組めば自らの力を伸長させることができるかなど各自が、目標をもって取り組めるように工夫する。 ・短時間で技能が習得できるような実習内容を精選する。 ・学習形態、視覚等にうったえる授業を工夫する。 ・実生活に合った実習内容を選択し、学習内容を家庭でも実践させる。 ・アクティブラーニングを通して話し合いや発表する機会を多くする。

【外国語】

<p>■生徒の状況</p>	<p>どの学年も落ち着いて学習に取り組んでいる。明るく素直であり英語に興味関心をもつ生徒が多いが、得意な生徒と苦手な生徒の差が開いてしまう傾向がある。</p>
<p>■指導についての課題</p>	<p>・話したり聞いたりする活動には意欲的に参加できる生徒が多いが、音声と文字が結びつかず、読んだり書いたりする活動を苦手に思う傾向がある。</p>
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<p>・既習事項をALTの授業でアウトプットできるよう、平素の授業から基礎基本のインプットを丁寧に行う。 ・音読に力を入れ、読解力を向上させる。 ・ペア活動、グループ活動、発表などを通して、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を育成する指導を心がける。 ・電子黒板を用いての視覚的な発声・音読練習などを取り入れる。</p>

【総合的な学習の時間】

<p>■生徒の状況</p>	<p>学年毎のテーマに対して、目的意識をもって、取り組んでいる。課題学習に対しても前向きに取り組んでいる。</p>
<p>■指導についての課題</p>	<p>・言語活動とともに、表現力の向上を図る。 ・取組を進める中で、見通しのある計画を立てさせる。</p>
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<p>・口頭での発表、紙面にまとめた発表など、発表する機会を多く取り入れる。 ・ICTを活用し、資料等を基にして、課題をしっかりと分析させて取組を進めさせる。</p>

○ その他(言語活動の充実等)

- ・ 言語活動に関わる教科を中心に、計画的に書く機会を設け、丁寧に添削する。また、生徒同士が互いの文章力の優れている部分を学び合い、一人一人の書く力に生かしていけるよう指導していく。
- ・ 各教科の中では、話し言葉と書き言葉の違いを意識できるよう、スピーチ原稿の形で文章を作成し、発表する機会を設定する。そして、自分の考えを発表する場面を多く設けられるような授業展開を考える。